能登地震から50日

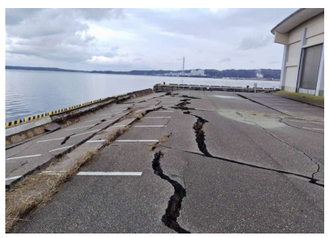
～ 七尾支部 茶畑委員長と話して ～

１月30日から31日、豊橋シーパレスで全港湾中央委員会がおこなわれました。中央委員会１日目に、日本海支部から地震の支援へのお礼、地震発生時の報告、そして現状報告がありました。

その夜、部屋飲みで偶然、七尾支部の茶畑支部長と同席しました。七尾支部のある組合員の日常生活について話されました。

地震が起こって以降、その組合員の日常は水を探すことです。家族のために「飲料水」「洗濯をするための水」「下水処理をするための水」これだけの水を一日中探すことが日課となりました。

この日本でこの様な現実が起こっているのです。顔も名前も知らないけど、仲間が困難な状況に直面しています。しかし、被災した皆は、「また日常生活が戻ってくるのを信じて今は踏ん張っている」と言ってました。



私はこれを聞いた時、何とも言えない気持ちになりました。私ができることは、この現実を私なりの方法で伝え、皆の団結をもって乗り越える。そして今も困難に直面している仲間のことをおもんぱかってほしく感じました。私たちも阪神淡路大震災に遭いました。そのことを今一度思い出すことが大切だと思いました。

（執行部　佐久原智彦）

全港湾日本海地方本部（日本海地区港湾・事務局長）山賀茂さんの被災地の支援行動を 終えての一文を紹介します。

去る、１月１日に発生した能登半島地震は、日本海地区においても石川県で震度７、富山県、新潟県は震度５強となり各地、各港で大きな被害となりました。幸いにも組合員全員の人命は確保されましたが、残念ながら親戚関係で亡くなられた方の報告等を受けています。亡くなられた方や被災された方々のご冥福とお見舞いを申し上げます。

私たちは日本海地区として、１月５日対策本部を立ち上げ、zoom による執行委員会を開催し、情報の把握に努めると共に報告体制の確認を行いました。また一日も早い復旧、復興と雇用と職域を守り、組合員が元の生活に戻れるように取り組む事を決定しました。併せて、上記を全国港湾と全港湾中央本部に連絡し、いち早く全国港湾、港運同盟を含め各地方、支部より多大なる義援金と激励を受けました。この事に関し心より感謝致します。

日本海地区港湾・鈴木議長(全港湾日本海地方本部執行委員長)は、山賀、小林と共に １月28日 (日) に金沢港、七尾港、伏木港に出向き、全国の仲間の激励と義援金を届けました。各地の委員長からは、未だ被災地組合員の中には避難所で生活する人や断水が継続している地域に住む人など平穏な生活が営めないなどの報告を受けました。また、私たちの職場である港も数か所の岸壁で隆起や陥没、地割れなどの被害にて、国、港湾管理者 から使用許可が下りていません。各省庁や自衛隊の支援船などが入港するに留まっています。

この取り組みにより各支部から、組合員の安心を取りしたいとする力強い言葉をもらい感銘を受けました。時間は掛かるかもしれませんが、日本海として団結して復旧、復興を成し遂げ、組合員に笑顔が戻るまで頑張ります。

だんけつ

第３８０号　２０２４年２月２１日

発行
大阪市港区築港１－１２－２７
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者　國分仁昭

大幅賃上げを勝ち獲ろう！

書記長　吉馴 真一

はじめに、元日に石川県能登地方で震度7、新潟県でも震度6の地震が発生しました。

約2週間が経過した討論集会時点でも被災の全容がつかめないなか、安否がわからない人の捜索や必要な物資を届けるための道路の復旧などが急がれています。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。現在も被災地では、多くの方が不安な時を過ごされていることと存じます。被災地域の皆様の安全確保、そして一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

１月13日・14日、ホテルクライトン新大阪において「大阪支部２０２４年春闘討論集会」が開催されました。中央本部より松永書記長を来賓に迎え、各分会代表者と執行部、総勢52名が参加し24春闘のたたかい方について確認しました。

陣内副委員長による開会の挨拶がおこなわれ、田中浩二さん（ミナト産業分会）津村拓哉さん（朽木協鐵分会）の両名が座長に選出されました。支部代表挨拶を小林委員長がなされ、松永中央書記長から春闘オルグを受けました。吉馴書記長より２４春闘方針の提案がおこなわれ、２４春闘の重点課題としては、急激な物価高騰から生活をまもるためには、大幅な実質賃金の引き上げが必要不可欠であるとして３万円以上の要求額が提案されました。緊迫する問題としては4月からトラック運転手などの残業時間の上限規制が始まることで、労働時間が減るドライバーも、働きやすくなる一方で収入が減る懸念があり、賃下げなしの労働時間短縮を求めることが必要とされます。また、今回の能登半島地震を考えれば、万博開催は即座に中止し、南海トラフ地震対策の強化や被災地の復興支援、全国の防災対策を最優先させるべきであるとのべ、さらに労働者ならびに国民的諸課題、反戦、反核、平和と民主主義、環境を護るたたかいや、選挙闘争について提案されました。最後にたたかいの進め方や闘争体制の確立及び春闘をたたかい抜くための財政を確立するとして春闘カンパが提案されました。

その後、３班に分かれテーマを「賃上げ」として分散会がおこなわれました。

２日目、各分散会まとめ報告がありました。

A班は、２３春闘要求額が３万円に増額した結果について、参加者のほとんどが効果がみられなかったとありました。しかし一部の分会では要求額を上げることにより圧力がかかり例年以上の賃上げや労働条件の獲得報告もありました。また、春闘で求めるものは一番に賃金引き上げだが、無理な場合は、休みが欲しい。そのためには休みが取れる環境作りに人員補充もしっかり考えていきたい。その他、現場と支部との温度差が感じられる意見もありました。全体討論質疑として、春闘カンパはなぜ当り前のように取るのか、成果がでてから取るのはどうか。などのまとめ報告がありました。

B班では、支部要求額３万円以上は賛成であるが、実際、トラックの2024年問題、待機時間の問題など多数の課題もある。しかし物価高騰など考えると、会社の経営状況をみながら、春闘をたたかう必要があると考える。支部としてこの春闘は粘り強い要求・交渉